

澤村 円安で輸出拡大に期待

上期は減収減益見込み

澤村の清水民生社長は為替の円安化を受けて、日本製生地への輸出拡大に期待感を表すとともに、インナー子会社のプレジャージーンを中心に中国からアセアンへの生産シフトを進める考えを示した。

今上期（2012年10月～13年3月）の業績は前年同期比減収減益となる見込み。市況の悪さに加え、製品 OEM を中心に収益性の低い商いからの脱却を進めたことが減収につながった。下期は近年取り組む「利益体質へのシフト」や、生地と製品の連動性を高めるために昨年10月に新設した「アクティブスタイルチーム」の効果発現などから明るい見通しを立てており、通期業績は前期並みを見込む。

主要仕入れ先である北陸産地への発注量も近年は減少傾向。その主な要因は円高や日中関係悪化などを背景とした輸出の苦戦だ。昨年末からの円安を受け、この部分で反転を狙う。「(中国では)日本製インナー生地への評価が高い」こともあり、円安の恩恵は十分受けられるとみる。輸出拡大に伴って産地への発注量を増やしたい考えだ。

一方で力を入れるのが、中国からアセアンへの生産地シフト。現状、インナー製品製造販売子会社であるプレジャージーンの生産地は中国100%だが、これを一部アセアンにシフトする。そのため6月設立予定のタイ現地法人を活用する。

6月にタイ現地法人設立

澤村は今年6月をめどに、タイに独資の現地法人事務所を設立する。

現在は同国に駐在員事務所を設置する。現地法人化によって現地決済の要望に応え、製品を中心に対日アセアン生産を加速する。